

(平成23年8月分)

部 門	市況の概要
野 菜	<p>8月期の野菜の入荷状況は、根菜類では、長ダイコンは、主力産地の作柄が良好であったことから入荷増となった。西洋ニンジンも、産地により作柄は様々であったが、全体では入荷増となった。葉菜類では、ハクサイ、キャベツ、レタスは、天候不順の影響から作柄不良がみられ、キャベツ、レタスで入荷減となる一方、ハクサイでは、中央集散機能の発揮により入荷増となった。ホウレンソウは、主力産地が、作柄良好であったことから入荷増となった。果菜類では、キュウリは、主力産地の福島県産で震災の影響から出荷量が減少し入荷減となった。ナスは、一部産地で、台風の影響から入荷減となった。トマトは、主力産地の天候不順の影響から小玉傾向での入荷となり入荷減となった。ピーマンは、天候不順の影響から上旬は、入荷減であったがその後、回復し入荷増となった。土物類では、バレイショは、主力産地の天候不順により生育の遅れがみられた。前年の入荷が少なかったことから前年同期並みとなった。タマネギでは、産地により作柄は様々であったが、全体では、入荷増となった。野菜全体の入荷量は、前年同期を3%上回った。</p> <p>価格は、根菜類では、入荷増により単価安となった。葉菜類では、入荷増や業務加工需要の低迷により単価安となった。果菜類は、ナス、トマトでは、入荷減により単価高となった。一方、入荷増であったピーマン、前年単価高であったキュウリで、単価安となった。土物類では、入荷増であったタマネギ、前年単価高であったバレイショで、それぞれ単価安となった。野菜全体では、前年同期を13%下回った。</p> <p>品目別には、長ダイコン、西洋ニンジン、ハクサイ、ホウレンソウ、ピーマン、タマネギが入荷増の単価安、バレイショが入荷前年並みの単価安、キャベツ、レタス、キュウリ、ナス、トマトが入荷減の単価高となった。</p> <p>根菜類は、入荷が11%増加し、価格は34%安となった。 葉菜類は、入荷が3%増加し、価格は25%安となった。 果菜類は、入荷が5%減少し、価格は4%高となった。 土物類は、入荷が8%増加し、価格は22%安となった。</p>
果 実	<p>8月期の果実の入荷状況は、柑橘類、リンゴ類、ナシ類、ブドウ類、スイカ類で生育期の天候不順から作柄不良となった。ナシ類では、入荷減となったが、昨年入荷の少なかった柑橘類、リンゴ類では、入荷増となった。ブドウ類は、本月に入荷がずれ込み入荷前年並みとなった。一方、作柄が良好であったモモ類では入荷増となった。メロン類は、作付面積の減少から入荷減となった。果実全体の入荷量は、前年同期並みとなった。</p> <p>価格は、リンゴ類、ナシ類、スイカ類は、前年が高値であったことから、単価安となった。また、モモ類は、入荷増により単価</p>

安となった。柑橘類は、入荷増ながら、前年単価安であったことから前年同期並みとなった。ブドウ類、メロン類では、品目により様々で、前年同期並みとなった。果実全体で、前年同期を9%下回った。

品目別には、津軽リンゴ、モモが入荷増の単価安、ハウスミカンが入荷前年並の単価高、アールスメロンが入荷減の単価高、デラウェアが入荷減の単価安、幸水ナシ、大玉スイカが入荷減の単価安となった。

柑橘類は、入荷が4%増加し、価格は前年並みとなった。
リンゴ類は、入荷が42%増加し、価格は18%安となった。
ナシ類は、入荷が7%減少し、価格は5%安となった。
モモ類は、入荷が18%増加し、価格は20%安となった。
ブドウ類は、入荷、価格ともに前年並みとなった。
メロン類は、入荷が11%減少し、価格は前年並みとなった。
スイカ類は、入荷が8%減少し、価格は24%安となった。

主要品目（野菜）	市況の概況
<p>【根菜類】 長ダイコン</p>	<p>北海道を中心に、青森県、兵庫県、岩手県からの入荷。 主力の北海道産で、作柄良好であったことから、全体の入荷量は、前年同期を13%上回った。 価格は、入荷増により、前年同期を38%下回った。</p>
<p>西洋ニンジン</p>	<p>北海道を中心に、青森県、中国、和歌山県からの入荷。 主力の北海道産で、生育期の低温、干ばつの影響により細物傾向での入荷となったものの、青森県産の入荷が順調であったことから前年同期を13%上回った。 価格は、入荷増により、前年同期を37%下回った。</p>
<p>【葉菜類】 ハクサイ</p>	<p>長野県を中心に、北海道、群馬県からの入荷。 各産地ともに、生育期の高温、干ばつの影響により作柄不良がみられたものの、中央集散機能の発揮により、入荷量は前年同期を15%上回った。 価格は、入荷増であったこと、また、加工、業務需要の低迷により前年同期を36%下回った。</p>
<p>キャベツ</p>	<p>群馬県を中心に、長野県、北海道からの入荷。 主力の群馬県産で、天候不順の影響から作柄不良がみられ、全体の入荷量は、前年同期を4%下回った。 価格は、入荷減ながら、加工、業務需要の低迷により前年同期を30%下回った。</p>
<p>ホウレンソウ</p>	<p>岐阜県を中心に、北海道、長野県、京都府、茨城県からの入荷。 主力の岐阜県産で、天候に恵まれ、作柄良好であったことから全体の入荷量は、前年同期を54%上回った。 価格は、入荷増により前年同期を19%下回った。</p>
<p>レタス</p>	<p>長野県を中心に、北海道からの入荷。 各産地ともに、天候不順の影響から作柄不良がみられ、全体の入荷量は、前年同期を5%下回った。 価格は、入荷減ながら、加工、業務需要の低迷により前年同期を25%下回った。</p>

<p>【果菜類】</p>	
<p>キュウリ</p>	<p>京都府を中心に、福島県、愛媛県、奈良県、青森県からの入荷。多くの産地で作柄は、良好であったものの、主力の福島県産で、震災の影響から入荷減となり、全体の入荷量は、前年同期を5%下回った。</p> <p>価格は、入荷減ながら、前年が単価高であったことから前年同期を3%下回った。</p>
<p>ナス</p>	<p>京都府を中心に、徳島県、岐阜県、奈良県、和歌山県からの入荷。主力の京都府産は、天候に恵まれ、作柄良好であったものの、徳島県産、和歌山県産で、台風の影響から作柄不良がみられ、全体の入荷量は、前年同期を8%下回った。</p> <p>価格は、入荷減により、前年同期を7%上回った。</p>
<p>トマト</p>	<p>北海道を中心に、岐阜県、茨城県、京都府、青森県からの入荷。主力の北海道産で、天候不良の影響により小玉傾向での入荷となり、全体の入荷量は、前年同期を9%下回った。</p> <p>価格は、入荷減により前年同期を6%上回った。</p>
<p>ピーマン</p>	<p>大分県を中心に、兵庫県、茨城県からの入荷。主力の大分県産で、生育期の低温、多雨の影響から上旬は、入荷減となったものの、中旬以降、生育が回復し、入荷増となった。全体の入荷量は、前年同期を12%上回った。</p> <p>価格は、入荷増により前年同期を15%下回った。</p>
<p>【土物類】</p>	
<p>バレイショ (メイク含む)</p>	<p>北海道を中心に、青森県、長崎県、千葉県からの入荷。主力の北海道産、青森県産で、生育期の干ばつの影響から生育の遅れがみられたものの、前年の入荷が少なかったことから、前年同期並みとなった。</p> <p>価格は、前年が単価高で推移したことから、前年同期を30%下回った。</p>
<p>タマネギ</p>	<p>兵庫県を中心に、北海道、中国、京都府、長崎県からの入荷。主力の北海道産で、天候不順の影響から作柄不良がみられたものの、兵庫県産の入荷が順調であったことから全体の入荷量は、前年同期を11%上回った。</p> <p>価格は、入荷増により前年同期を27%下回った。</p>
<p>【その他野菜】</p>	
<p>生シイタケ</p>	<p>徳島県、広島県を中心に、岡山県、和歌山県、北海道からの入荷。和歌山県、徳島県、岡山県で、高温の影響から作柄が悪く、前年同期を6%下回った。</p> <p>価格は、需要の低迷により、単価安であった前年同期並みとなった。</p>

主要品目（果実）	市況の概況
ハウスミカン	<p>佐賀県を中心に、長崎県、和歌山県、宮崎県、愛知県からの入荷。各産地ともに、生育期の高温の影響により、作柄不良がみられた。全体の入荷量は、前年の入荷が少なかったことから、前年同期並みとなった。</p> <p>価格は、前年が単価安であったことから、前年同期を5%上回った。</p>
津軽 （サン含む）	<p>長野県を中心に、山形県からの入荷。</p> <p>主力の長野県産で、高温の影響により着色不良がみられた。全体の入荷量は、前年の入荷が著しく少なかったことから、前年同期を11%上回った。</p> <p>価格は、入荷増であったこと、また、前年単価高であったことから、前年同期を10%下回った。</p>
幸水ナシ	<p>佐賀県、徳島県、長野県を中心に、富山県、鳥取県からの入荷。各産地ともに、生育期の天候不順の影響により小玉傾向での入荷となり、前年同期を6%下回った。</p> <p>価格は、入荷減ながら前年が高値であったことから、前年同期を4%下回った。</p>
モモ	<p>山梨県を中心に、福島県、山形県、和歌山県からの入荷。各産地ともに、作柄良好であったことから、前年同期を18%上回った。</p> <p>価格は、入荷増により、前年同期を20%下回った。</p>
デラウェア	<p>山梨県を中心に、山形県、長野県からの入荷。</p> <p>天候不順による生育の遅れから、多くの産地で入荷が本月にずれ込んだ。全体の入荷量は、前年の入荷が多かったことから、前年同期を8%下回った。</p> <p>価格は、前年同期並みとなった。</p>
アールス	<p>静岡県を中心に、茨城県、愛知県、高知県、京都府からの入荷。例年、本月の入荷の多い愛知県、茨城県で作付面積が減少しており、全体の入荷量は前年同期を25%下回った。</p> <p>価格は、入荷減により、前年同期を8%上回った。</p>
大玉スイカ	<p>山形県、長野県を中心に、秋田県、石川県からの入荷。各産地とも生育期の高温の影響により、作柄不良がみられ、入荷量は、前年同期を8%下回った。</p> <p>価格は、入荷減ながら前年が高値であったことから前年同期を25%下回った。</p>